

各関係機関長 様

兵庫県病害虫防除所長

病害虫発生予察防除情報 第3号を下記のとおり発表します。
タマネギべと病は苗床で感染しますので、苗床での防除の徹底につきましてご指導願います。

平成 28 年度 病害虫発生予察防除情報 第 3 号
タマネギべと病の防除対策について

- 1 対象作物 タマネギ
- 2 病害虫名 べと病
- 3 発生地域 県下全域（特に淡路地域）

4 今後の発生について

本年春期は本病の発生が多かったことから、べと病菌の卵胞子に汚染されているほ場が多いと考えられる。また9月の降水量が多く、台風などにより一部地域では場の冠水も見られたことから、卵胞子の流入などにより苗床が汚染されている可能性がある。さらに、大阪管区気象台の10月6日付け1ヶ月予報によると、近畿地方の降水量は、多い確率が40%と予想されており、卵胞子が感染しやすくなる。以上のことから、今後、苗床での発病に注意が必要である。

5 本病の特徴について

本病は卵菌類に属するべと病菌による病害であり、前年秋の苗床や本田に残った卵胞子から感染し（写真1）、大部分が無病徴のまま越冬して春期に越年罹病株として発病する。栽培ほ場においては、越年罹病株が感染源となって二次感染株が発生し、ひどい場合には葉が枯死する。

6 防除対策について

- (1) 苗床ほ場の排水が悪いと、発病を助長するので、排水対策を徹底すること。
- (2) 苗床において、降雨前後を中心に定期的な薬剤防除に心がけること。
- (3) 苗床をよく観察し、発病株(写真参照)が見られた場合は早期に抜き取り、適正に処分すること。
- (4) 苗床で発病株が見られた場合には、定植後の本田で越年罹病株が発生すると考えられるので、頻繁に栽培ほ場を観察し、発病株が見られた場合は早急に抜き取り・処分し、薬剤防除すること。
- (5) 防除薬剤については、兵庫県農薬情報システムを参考に選定し、農薬使用基準を遵守すること。
特に、Q o I 剤*については耐性菌リスクの観点から、苗床での使用は1回にとどめること。

兵庫県農薬情報システム (<http://www.nouyaku-sys.com/nyaku/user/top/hyogo>)

- (6) ネギのべと病はタマネギの感染源になる可能性があるため、ネギに近接した苗床では防除を徹底する。

*Q o I 剤:病原菌の呼吸をつかさどる器官に作用する殺菌剤の一種。アゾキシストロビン(商品名:アミスター)、ピラクロストロビン(シグナム)、フェンアミドン(レイデン)、ピコキシストロビン(メジャー)、ファモキサドン(ホライズン)、クレソキシムメチル(ストロビー)、ピリベンカルブ(ファンタジスタ)などがこのグループに属し、タマネギに登録がある。

7 その他

今回の情報は、予想される発生程度に応じて発信する4段階（技術情報＜防除情報＜注意報＜警報のうち）、軽い方から2番目のレベルのものであり、平成28年産の発生状況を踏まえ注意喚起を行うものです。



写真1 苗床でのタマネギベと病の症状
葉が湾曲し、葉色がややうすく、灰色の胞子を形成している(枠内)



写真2 定植後の本田でのタマネギベと病の症状
葉が大きく湾曲し、葉色がややうすく、次第に灰色の胞子を形成する

問い合わせ先 兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222